

KEN TIMES

2021年 2月号



今月のインタビューは、
「野沢出張マッサージ
サオリセラピー」
の齊藤沙織さんだぜい。



◆滑りの追求。



もっと上手になりたい。そう思う気持ち
がまた強くなってきて。最近
は専ら子どもを連れてのスキー
ですが、皆さんのSNSなんかの
写真や映像を見ていたら、
やっぱりスキーは格好いい
ですね。もっとレベルアップ
したい！改めてそう思いました。
長年やっているスキーですが、
バッチリ自分がイメージする
ように滑るのは、簡単ではあり
ません。好きなスキーヤーの
動画を見て、自分をそれに重
ねて。…追求は楽しいものです。

◆おだんご。



丁前にエプロンもつけて。1月になれば各お家に「団子の木」が成っています。あれを見ると、豊かな気持ちになりますよね。あのお団子ですが…3回旨さが楽しめます。まずは、蒸かしたて。鍋の蓋を開けると、ぷわっと米粉のいい香りがして、木にさす前に、アツアツの柔らかい団子に手が伸びます。もちろん、木から外した後の揚げたても止まりません。砂糖醤油に絡めて…これは王道です。そして、木に刺さったカチカチのお団子も、これまたイケます。口に入れた時はカチカチでそれこそ歯が立ちませんが、だんだん、じんわりと味が出てくる喜びを知るあなたは、マニアと呼んでいいでしょう。我が家の木からは、外す日にはすでに半分のお団子が消えているとか…。

◆マイブーム再来。

キンキンにするのです。窓を開けて、雪にグサツと突っ込んで。ここへ来て、また日本酒が美味しいです。寒く、雪の降る日に、暖かい部屋で温かい料理を食べながらいただくお酒は、格別としか言いようがありません。この日はふるさと納税でゲットしたステーキとの共演です。…幸せです。



◆八十一マスの宇宙。



村山聖という棋士をご存知ですか？重い腎臓病と闘いながら、己の全てを「名人」になることに注ぎ、29歳の世でこの世を去った村山さんの生きた証がノンフィクションでこの本に描かれています。一将棋会館ー古本屋ー自宅アパートー。自分の趣味と、「将棋に勝つこと」だけのためのそのシンプルな生活が羨ましくもあります。入院中のベッドの上でも、81マスの無限の宇宙を歩き、研鑽する村山さんが光り輝いています。中でも心に残った一節を抜粋します。ーもし自分が病気でなければ、そう考えることは村山には何の意味もなかった。病気を抱えながら生きる自分が自分自身であり、それは切り離して考えることはできない。病気が自分の将棋を強くし、ある意味では自分の人生を豊かにしているのだと考えたー 純粋に、そして貪欲に。一つのものに情熱を注ぐことの幸せさを僕は感じました。 ストレートに面白く、素晴らしい本です。

◆オレらのソリコース。

家の目の前に、除雪車が道路の雪を集めてきて出来る山が聳え立っています。その上にフカフカの新雪が積もり…とびっきりのソリコースが出来上がります。結構な斜度があるので、それなりにスピードが出て、正直大人が乗っても楽しいです。子ども達は途中から、ソリなしでコロコロ身体で転がり始めます。「わ〜！」と声を上げながら、それを何回も繰り返します。 青い空の下で、真っ白な雪と全力で戯れるのは、大人も子どもも、この上ない喜びです。



◆南南東に黙々と。



恍惚の表情です。その習わしがいつからあったのかはわかりませんが、我が家でもちゃんと黙って頬張っておりました。「黙って食べる」ようになったのって、最近ではありませんでした？子どもの頃にそんなことをやった記憶がありません。調べてみると、全国的に定着したのは、98年にセブンイレブンが全国販売を始めたことがきっかけのようです。起源は諸説ありますが、戦国時代前後のよう。「恵方」とは、歳徳神という、その年の金運や幸せを司る神様のいらっしゃる方角だそうです。それは何としてもやらなければなりません！そして今年は124年ぶりに2月2日の節分。…僕は当日に知りました。

◆冬の夕焼け。

保育園の帰

り道ですね。ここでも彼らは雪の山にひたすら登ります。冬の晴れた日の、特に寒い日の夕焼けは一段と綺麗な気がします。淡いオレンジの空に、青く浮かぶ妙高山も見えるだけで心が洗われるようです。さて、帰ってお風呂に入って、美味しいご飯を食べようか。



◆窓からの眺め。

雪景色ばかりですね。…この写真は、僕が3番目の「文(もん)」を抱きながら、家の中から外を見ています。「カカ」と「葉(よう)」が外で遊んでいます。2番目の「暖(だん)」は足元でお昼寝中です。「平和な日曜の午後。」僕はそう声に出して呟いてみました。ノルウェイの森であったのかな？ 声に出すと、よりそれを感じることが出来ます。そうしているうちに暖が目覚め、凄まじい泣き出し、すぐにまた慌ただしい日常に引き戻されました。



◆いつも心に、道祖神。



当然、寂しいものですよ。道祖神のない冬は。生まれた頃から毎年目の前でやっていて、それが初めて行われなから。…しかし、今回はつきりとわかったことがあります。僕は今年、消防団員として、野沢組惣代のみで行われた「どんど焼き」の警備に回っておりました。婦人の家から「唄えばつけ

と、惣代さん達が道祖神の唄を始めた時、あの興奮、あの喜びが強く心の中にあるのを、しっかりと感じました。

—そうか、僕らの心には、いつも道祖神の火が燃えているのか。この地に生まれ育ったことを誇りに思います。